

平成29年度 第5回小平市図書館協議会要録

- 1 日 時 平成30年1月11日(木) 午後2時から4時35分まで
- 2 会 場 中央図書館2階会議室
- 3 出席者 図書館協議会委員：12名 傍聴人：なし
事務局：中央図書館長、館長補佐兼庶務担当係長、花小金井図書館長、
小川西町図書館長、調査担当係長、サービス担当係長、
資料担当係長、推進担当係長、津田図書館長 計9名
- 4 配布資料 資料は省略させていただきます。
- 5 議事等
 - (1) 報告事項
 - ① 図書館の運営状況について
 - ・図書館行事の報告と今後の予定について（資料No.1）
（これまでの報告）
 - 11月25日 講演会「赤ちゃんと絵本 一親子のふれあいから地域の子育て支援へー」
は47人の参加。来年度から実施を予定しているブックスタート事業のための読み聞かせボランティア募集の一助とした。ボランティアについては、50人の募集に対して88人の申し込みあり。1月24日からスタートアップ講座を5回で開催する予定
 - 11月25日 武蔵野美術大学との連携事業で、小学生を対象に「ビンゴで探そう 世界の
本 BOOK TRAVEL」を開催した。武蔵野美術大学との連携は今年で4年目。今年のテーマ
は図書館のブランディングで、今後、利用案内、オリジナルグッズを作成していく。グ
ッズは有料でトートバックなどを予定
 - 12月6日～ おたのしみ会を仲町図書館から、順次、各図書館で開催
 - 12月23日～ 「本の福袋」開始。今回は3回目となる。
 - 1月6日～ 「ふるさとの新聞元旦号展」については後述
 - レファレンス事例の再整備を行う中で、パスファインダーを作成した。ホームページに
掲載しており、各館でも配布していく。今後、種類を増やしていけたらと考えている。
（今後の予定）
 - 1月13日 小川西町図書館で「家族で楽しむおはなし会」
 - 1月19日 小川西町図書館で、東京都立小平特別支援学校にてマルチメディアデイジー
図書案内
 - 1月20日 雑誌ブックリサイクル

- 2月6日～8日 多摩地域公立図書館大会 2年サイクルで小規模大会と大規模大会を実施しているが、今年は大規模大会ということで3日間、6つの部会での開催
 - 2月10日 子ども文庫連絡協議会主催による落合美知子さんの講演会「子どもたちに声の文化を！—乳幼児の成長とわらべうた—」を開催
 - 2月15日 図書館親子スペシャルデー
 - 2月17日 一般書ブックリサイクル
 - 2月23日 「図書館情報検索講座」を実施。今回で3回目。インターネット端末が全館に配備されていることから、データベースの利用も含め、利用者の情報リテラシーを高めていくという目的で企画
- ② 市議会12月定例会について
- 一般質問では25人の議員から60件の質問があり、図書館関係の主なものとして2件。
- 石毛議員から「乳幼児とその保護者にとって利用しやすい花小金井図書館を」の件名で、花小金井図書館の特徴と利用者の傾向、②現在の課題、③乳幼児とその保護者にとって、より利用しやすいように改善を検討できないかとの質問があった。答弁として、「①花小金井図書館は登録者数や貸出冊数等が地区図書館の中で一番多い図書館となっており、また、リクエスト件数は中央図書館よりも多く、これらの理由は駅の近くにあることなど、利用者にとって利便性の高い図書館となっているためと捉えている。また、利用者層の傾向について、おはなし会やおたのしみ会に参加する就学前から小学生までの児童が増えている傾向がある。②現在の課題は、他の地区図書館と比べて圧倒的に数が多い利用者に対して、満足度の高いサービスを提供することと考えている。対応としては、他の地区図書館よりも職員数を多くしているほか、開館時間も延長した。しかし、床面積は他の地区図書館と同程度であることから、利用者の数に対して、開架スペースが手狭になってきている。③改善の検討は、特に利用が増加傾向にある乳幼児とその保護者に、本をゆっくりと選び、読んでいただける空間を提供できるよう、書架の本の並べ方やレイアウトなどを工夫し、より利用しやすい環境づくりに向けて検討をしていく。」とした。その後、12月に児童コーナーのレイアウト変更を実施した。
- 宮寺議員から「小平の農・商家につけられた屋号を小平の無形遺産にできないか」の件名で、小平の各農・商家の屋号について、過去にどのような調査研究が行われたのか。また、そこで判明した小平の農・商家の屋号の起源や特徴はどのようなものかとの質問があった。答弁として、「小平市史編さんの過程等で調べたことが、小平市史の民俗編の中に記載されている。それによると、小平の農家は農業のかたわら商業的な稼ぎも含め、様々な稼ぎを行っていたことがあり、取引あるいは日常生活の必要性から屋号を使うようになったとのこと。こうした屋号が付けられたことは、多摩地域の街道沿い農家の特徴であり、その由来には生業や職業名、場所・地名、家の姓・名によるものがあると記載されている。」とした。
- ③ ふるさとの新聞元旦号展について
- 今回で38回目となる。60紙に寄贈依頼をして、現在、52紙より送付あり。23年度は48

紙、24年度は50紙、25年度は55紙、26年度は54紙、27年度は52紙。今年度も中央、大沼、上宿図書館で開催する。

(報告事項に関する質疑・応答)

会 長：花小金井図書館のレイアウト変更で、子どものスペースは取れたか。

事務局：書架を動かして、スペースを確保し、そこにソファを入れることで、広々とした感じがだせた。絵本とソファの距離も近くなり、座りながら本を読んだり選んだりすることがしやすくなった。

会 長：中央図書館の1階のようにフロアにマットを敷いて、まん中で寝転がるようなスペースはできなかったのか。

事務局：ソファに座るという形で対応しており、床に座るといことはしていない。要望があれば見直していきたい。

委 員：大学図書館などとは違って、まとまった休みがないから、書架を展開する時間が取れないのではないか。

事務局：毎週金曜日と第3木曜日の休館日は職員が出てきているので、書架の整理等を行っている。中央図書館でも育児関係の書架の変更を考えている。少しずつでも変えられればと思っている。

委 員：我々だと十進分類法が分かっているが、普通の人はそのようなことはない。一般の利用者が見やすい形で動線や配置を考えていく必要はある。それを職員全体で、図書館全体で話し合ったらいいと思う。

事務局：ずっと話し合いはしているところで、例えば中央図書館でも、古い本が置いてあった書架を動かして本を読むスペースを作るなど、常に利用者が使いやすいような工夫をしている。

委 員：パスファインダーについて、紙で配付することを前提に考えているのでPDFになっていると思うのだが、図書館ホームページでこのページまでたどり着くのが大変である。内容としては良いものだと思うので、もう少し簡単になると良いのだが。

事務局：ここでパスファインダーのお知らせを、図書館トップページの固定された場所に配置できるようにした。図書館のホームページで大事なものは、さまざまな資料に対するリンク集について充実していく必要があり、大幅な刷新をしている。リンク集などは、鳥取県立図書館などが充実しているので参考にしている。ホームページも、次回のシステム入替のときには、求める情報に行き当たるように工夫をしていきたいと考えている

委 員：ここまでの資料を作るのは大変だったと思うが、維持やメンテナンス、改定が負担に当たったりしないか。

事務局：ルーチンでやっていくことが大切で、行政資料などは常に更新されていくものなので、きちんとメンテナンスできる体制を考えていきたい。

委 員：図書館のホームページの重要なお知らせのところにあり、調査研究にパスファインダー

をお役立てくださいとあるが、パスファインダーという言葉が普通の人にどれくらいアピールできる言葉なのか、個人的には疑問がある。

事務局：そこも理解していただいた上で利用してもらえるよう工夫していきたい。

会 長：せっかく分かりやすく作っているのに、利用されないということが一番悲しいことである。

委 員：一般向けだけではなく、子ども向けの調べ学習に役立つように作っていけないのか。

事務局：それも考えている。去年は中央図書館、今年は仲町図書館で子ども向けのレファレンス支援を行った。その一環で検討している。さらなる充実に努めていく。

委 員：図書館のホームページについて、お知らせのところにある更新日付は、必要なのか。行事の日付と紛らわしく、分かりにくいのでは。

事務局：システム上、更新日は削れない。タイトルの出し方等で、可能な範囲で工夫できるか調べていきたい。

会 長：小平市のホームページと図書館のホームページが入り乱れているような気がする。市のホームページの方からアクセスしてくると、図書館のホームページにたどり着くまでが大変である。

事務局：市のホームページにはリンクを貼っているだけなので、トップページからだと入りやすいのだが、違うページからだと分かりにくい。小平市立図書館で検索した方が早い。

会 長：これだけの情報が入っているのだから、使いやすいものにして欲しい。それが情報リテラシーの向上に役立っていくと思う。

委 員：パスファインダーについて、地域のものに関しては、小平市がやるのには意義があると思う。一方で、一般的な調べ方に対しては近隣の図書館と連携してやることを考えたことはないのか。

事務局：多摩六都の中で、東久留米市とかは積極的にやっているようだが、やはり市によってやり方の違いや今までの積み上げたものの違い等があり、なかなか難しい面もある。協力していけるところ協力していければと思う。

委 員：おたのしみ会の人数について、中央と小川西町と仲町で人数の差があるようだが、何か特別な理由があるのか。

事務局：それぞれに、近隣の小学校や幼稚園などにチラシを配って、積極的に宣伝などを行っている。他の行事との重なりなどにより参加人数に差が出てくる場合がある。

委 員：パスファインダーはとても見やすく良いものだが、言語辞典の案内とあって、欧米の言語が取り上げられているが、利用者について在留の外国人のことは考えているのか。欧米の言語に限らず、アジア系の言語なども入れてもいいのではないかと。

事務局：確かに英米中心になってしまっている。絵本なども外国の絵本があるが、収集の過程で英米の方に偏った部分があった。今後は多文化ということ意識していく必要がある。

委 員：このようなパスファインダーを、図書館ではどのように作ったのか。

事務局：中央図書館の調査担当の中にレファレンス担当がおり、1年ほど時間をかけて、これら

を作った。

委員：これを使うのに、わざわざ参考室に行く必要があるのか。2階にあるパソコンでアクセスしないといけないのか。

事務局：この資料は1階にもおいて、利用が出来るようにする。その他にレファレンスサービスの充実として、行政支援も重要なサービスになってきており、図書館がどう支援していくのか、行政側にも情報を発信している。レファレンス通信を市職員の掲示板にも掲載し、最近では、小平の町名の由来についてと、小学校の名前が途中から地名に代わったのはどうしてかを取り上げた。職員も知らないことを図書館では調べられるという意味合いで行っている。利用者と行政に対しての双方にレファレンスを知ってもらうことが大事なことを考えている。

委員：レファレンスサービスの充実を考えた場合、それほど高くないものであれば、古書を購入したり、それに匹敵するものを揃えたりするのも良いのではないか。

事務局：図書館が物を購入する場合、市の契約を通すことになるので、図書館独自で買うには難しいところであり、研究が必要になる。

委員：東久留米は何故こんなにレファレンスサービスに力を入れているのか。この近隣の中でも、レファレンス共同データベースから表彰状をもらったりして、レファレンス通信のようなものをずっと出しているようで、何か経緯があつてのことか。

事務局：東久留米市は指定管理者で運営している中で、中央図書館だけ直営で運営しており、レファレンスに積極的に取り組んでおり、専門の嘱託職員がいる。ただ、3年後に全館指定管理になることが予定されている

(2) 協議事項 なし

(3) その他 なし